

授業科目	高次脳機能障害Ⅱ（評価）				
担当者	森岡悦子・中谷謙・圓越広嗣				（オムニバス）
実務経験者の概要					
学科名	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

本講義では、高次脳機能障害の症状に関する知識を基に、高次脳機能障害の各検査の目的と実施方法、結果の解釈法を理解し、障害像の捉え方を学ぶ。また症状分析に必要な情報と合わせて考察し、高次脳機能障害の症状のまとめ方を修得する。

## ■ 到達目標

1. 高次脳機能検査の目的と実施方法を学び、正しく施行することができる。
2. 症状に応じて、必要な掘り下げ検査を選択し、実施することができる。
3. 検査結果を、正しく解釈し、障害像を捉えることができる。
4. 検査結果から高次脳機能障害の症状をまとめることができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 認知機能の評価（1）：実施演習と解釈（レーブン色彩マトリックス）（森岡）  
 第2回 認知機能の評価（2）：実施演習と解釈（コース立方体組合せテスト）（森岡）  
 第3回 認知機能の評価（3）：実施演習と解釈（MMSE、HDS-R）（森岡）  
 第4回 注意機能（1）：注意の特性と、注意機能障害の臨床像（森岡）  
 第5回 注意機能（2）：標準注意検査法・標準意欲評価法の目的と手順の理解、実施（森岡）  
 第6回 注意機能（3）：標準注意検査法・標準意欲評価法の結果の解釈、症状のまとめ（森岡）  
 第7回 記憶（1）：記憶障害の病巣と症状との関係（圓越）  
 第8回 記憶（2）：リバーミード行動記憶検査（RBMT）の目的と手順の理解（圓越）  
 第9回 記憶（3）：リバーミード行動記憶検査（RBMT）の演習と結果の解釈、症状のまとめ（圓越）  
 第10回 失認（1）：視覚失認、相貌失認、地誌の見当識障害、聴覚失認、触覚失認の臨床像（森岡）  
 第11回 失認（2）：標準高次視知覚検査（VPTA）の目的と手順の理解、結果の解釈、症状のまとめ（森岡）  
 第12回 視空間障害（1）：半側空間無視、構成障害、バリント症候群（中谷）  
 第13回 視空間障害（2）：BIT 行動性無視検査の目的と実施手順の理解（中谷）  
 第14回 視空間障害（3）：BIT 行動性無視検査の演習と、結果の解釈、症状のまとめ（中谷）  
 第15回 遂行機能：前頭葉機能、外傷性脳損傷による高次脳機能障害の評価と症状のまとめ（森岡）

## ■ 評価方法

筆記試験80%、平常点（レポート、授業への積極性）20%

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

授業内に示された要点を中心に、よく復習すること。

## ■ 教科書

書 名：高次脳機能障害学 第2版  
 著者名：石合純夫  
 出版社：医歯薬出版株式会社

## ■ 参考図書

書名：標準言語障害学 高次脳機能障害学

著者名：藤田郁代・阿部晶子 編集

出版社：医学書院

## ■ 留意事項

## ■ 講義受講にあたって